

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	家政学研究科 食物栄養学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

食物栄養学専攻(博士前期課程)の理念・目的は、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的」別表1として、以下の通り明文化されている。「食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4研究分野において、その研究動向や実験・調査の原理を学び、正確な科学知識にもとづいて総合的に評価・分析する能力を身につけ、食を取り巻くさまざまな問題の解決に専門的に取り組み、コーディネートできる人材を育成します。学位取得後には、食にかかわる高度な専門的職業人及び教育・研究者として活躍できることを目指します。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

理念・目的が「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」として平成25年に制定され、定期的に見直しが行われている(平成27年7月改正)。今後も時代の変化に対応して継続的に内容の検討を行う必要がある。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等は、「学園要覧」「大学ホームページ」等において大学構成員のみならず広く社会に公表されており、積極的にその伝達・理解を図っている。大学院に所属する学生に対しては、毎年度更新・編集されている「大学院要覧」、履修ガイダンスやオリエンテーション等を通じて、専攻の理念・目的、教育課程、教育目標、学位授与の方針等についての説明を行っている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等が掲載されている大学ホームページのアクセス数は、1000件以上であり、社会への周知がより広く行われていると考えられる。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

個別の視点での入力不要

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

適切な点検・評価が行われています。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	家政学研究科 食物栄養学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

食物栄養学専攻教育目標及びの学位授与方針は「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」第3条 別表1及び別表2に以下のように明示されている。

「次の要件と資質を有している者に対して修士(食物学)の学位を授与します。

学位授与の諸要件;大学院学則第12条に定める要件を満たし、あわせて別に定める学位論文審査基準を満たした者。

基本的な資質

(1)[知識・理解]食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4研究分野において、その研究動向や実験・調査の原理を学び、正確な科学知識にもとづいて総合的に評価・分析する高度な専門的知識を修得している。

(2)[技能・表現]上記の高度な専門的知識を活用・応用する専門的能力を修得している。

(3)[態度・志向性]建学の精神を深く理解し、豊かな人間性と高度な専門知識と幅広い視野を備え、生涯にわたり新しい価値を生み出していこうとする自覚を有している。

(4)[統合的能力]上記(1)～(3)の高度な専門的知識や専門応用能力を統合的に活用することができ、グローバルな社会に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「学位授与の方針」は、大学ホームページや「大学院要覧」においても明示されている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1の「教育目標」及び、別表3の「教育課程の編成・実施方針」において、食物栄養学専攻の教育課程の教育目標、編成・実施方針は下記のように明示されている。

(教育目標)食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4研究分野において、その研究動向や実験・調査の原理を学び、正確な科学知識にもとづいて総合的に評価・分析する能力を身につけ、食を取り巻くさまざまな問題の解決に専門的に取り組み、コーディネートできる人材を育成します。学位取得後には、食にかかわる高度な専門的職業人及び教育・研究者として活躍できることを目指します。

(教育課程の編成・実施方針)食物栄養学専攻では、以下の方針に基づき、教育課程を体系的に編成・実施し、その研究の成果を修士の学位論文として作成し、食にかかわる総合的な能力の確立を目指します。

①講義科目においては食品学、栄養学、衛生学、調理学の各分野における専門的知識を個別に学習するとともに、他分野も履修し、食物栄養学として体系的に学習する。

②特別実験・研究においては、学生が担当教員との活発な対話のもと、課題研究に自主的に取り組む。これにより、未解明の問題に対するアプローチの仕方、論理的思考法、各分野の先端的な知識と実験技術、科学倫理を学ぶ。

③成果を学会、学術論文等を通じて発表することを支援し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、討論の技術習得を目指す。

これらの内容は、大学院担当の教職員・大学院生など全構成員に配布される学園報への掲載により、周知・徹底が図られている。また、大学ホームページ、「大学院要覧」にも明示され、大学構成員のみならず広く社会に公表されている。「大学院要覧」は学生や教員に配布されており、大学構成員への周知を促すものである。履修ガイダンスやオリエンテーションでは「学習の手引」を用いて、教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針などを学生に説明している。社会への公表は大学ホームページを中心に行われている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「学位授与の方針」を、大学ホームページや「大学院要覧」においても明示している。

大学院生に対しては、資料配付を含む履修指導を行っているが、学部と比べ少人数であるため、定期的に大学院担当教員から直接、大学院生に周知を行っている。また、教員相互の連携のため、定期的に会議を行っている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
食物栄養学専攻(博士前期課程)では、1学年定員6名であり、少人数教育の充実を図っている。基盤となる学部が特有資格の養成施設であるが、研究科自体は資格養成施設ではないので、それぞれの学部専攻の上位課程として、基礎・発展・周辺領域を包含した柔軟な体系となるよう編成に心がけている。食物栄養学専攻(博士前期課程)では、基礎科目群、分野科目群、特別研究が設定されているが、学生の研究テーマ等によっては選択されず不開講となる科目が生じる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
博士前期課程については、1年次に大学院生としての研究を開始するとともに、研究法に関する授業・実習を1年次に取得するように指導しており、適切に配置されているものと考ええる。また、各指導教員の専門性により研究方法やスタイルは異なるが、指導教員の個別指導により修士論文の完成を目指す。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4分野に渡る幅広い研究を充実させるため、学外の機関(他大学、企業、研究所、病院等)とも積極的に交流が行われている。少人数であるので、履修者が確定後、大学院生と話し合っ、その要望を取り入れる形での微修正は若干行うものの、ほぼシラバスに沿って進められ、展開されている。 大学院特別講義として、食に係わる各分野のトップの研究者を招いて年間3～4回の集中講義を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
学部と異なり少人数教育であり、また本研究科の指導教員は、出張などを除くとほとんど毎日研究室に在籍しているので、大学院生にとっても、ほぼ1対1の関係で研究の指導、論文執筆の指導が受けられる態勢にある。 平成29年度大学院アンケートによると、授業内容及び授業レベルについては、おおむね妥当であることを示す評価値3、4の合計が約8～9割であった。ただし、アンケート結果は特性の異なる3専攻からなる研究科全体として発表されているため、評価が大きく分かれたり偏りが生じ、結果の解釈が難しい。自由記述は参考となる。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
シラバスの「評価方法」の項目において、「評価項目」「配分(%)」「評価の観点」の小項目を設けて評価基準を明らかにし、厳格な成績評価を心がけている。提出された各学生の成績は、教務課・教務委員会によって確認・点検され、適切な単位認定が行われている。授業科目の成績評価は個々の担当教員に任されている。研究成果の発表については、食物栄養学専攻内と家政学研究科全体の2回行われ、厳格に審査されている。学位授与は、「京都女子大学大学院学則」「京都女子大学大学院学位論文の取扱いに関する内規」および「学位論文審査基準」に明記されている。授与の条件として、必要単位、口頭発表、論文審査のいずれも基準を満たしていることが要求され、最終的には教授会において審査の上、学位授与(修了認定)手続きが行われる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
各大学院生の研究内容は修士論文としてまとめられ、学内発表会で審査・確認されている。また、各分野の学会にて発表や論文執筆が行われている。大学の食物栄養学科や教員のホームページでは学会での発表や論文業績等を公開している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
平成29(2017)年度の博士前期課程の学位授与者数は6名であり、博士前期課程の修了予定学年における学位授与率は100%であった。また、全員の就職が決定され、就職率100%であった。これらの成果は本専攻の学習成果が達成されていると評価できる。また、就職先も食物栄養関係であり、教育目標と概ね整合性が取れており、本専攻の教育内容が大学院生のキャリア形成において一定の成果をあげていることを示している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
教育課程及びその内容、方法の適切性については、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を定めた「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」に基づき、次年度の時間割を作成する作業の際に、カリキュラムの妥当性、担当教員の選定などを専攻内の会議等で検討している。また、アンケートやFD活動を通して、大学院生の満足度を上げる努力を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
教育課程及びその内容、方法の適切性の成果については、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針に基づき、大学院研究科委員会や学科会議等において定期的に検証が行われている。平成29(2017)年度、「大学院生に対するアンケート」の授業内容及びレベルについて約8割以上がおおむね妥当と回答している。FD活動については、大学院生の専門性向上と将来の進路についての参考にするため、学科と合同で現場の第一線で働く卒業生を招聘し体験談を話してもらったりなど、積極的に取り組んでいる。

【課題および改善方策】 …現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべきものなし。
【将来に向けた発展方策】 …実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】 …点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】 …点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 適切な点検・評価が行われています。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	家政学研究科 食物栄養学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

食物栄養学専攻では、学生の受け入れ方針を「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」の別表4において、以下のように明示している。これらの内容は、大学ホームページや募集要項で広く社会に公開されている。

「食物栄養学専攻は、食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4研究分野において、その研究動向や実験・調査の原理を学び、正確な科学知識にもとづいて総合的に評価・分析する能力を身につけ、食を取り巻くさまざまな問題の解決に専門的に取り組み、コーディネートできる教育・研究者の育成を目標としています。そのために、大学院入学者選抜試験においては上記4分野における専門的知識・技術を有するすぐれた人材を求めます。」

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学院入試について決定された募集方法などは本学公式サイトの入試情報コンテンツへの掲載や、募集要項の作成・配付により公表している。入学者受け入れ方針に基づいて、学生募集および入学者選抜を実施する体制となっている。入学試験は、語学・専門科目の筆記試験と個別面接試験により、入試委員会での判定、研究科委員会での審議・承認という手続きにより公正かつ厳格に行われている。学生の進路選択の機会を確保すべく、博士前期課程については秋季10月と春期2月の年二回入学試験を実施している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

平成30(2018)年度の学生募集(食物栄養学専攻博士前期課程)では、募集人数(6名)、受験者数(7名)、合格者数(7名)、入学者数(7名)であった。ここ数年、食物栄養学専攻博士前期課程の受験者数及び入学者数は増加傾向にあり、他大学からの受験者及び入学者もある。入学者数は募集人数(6名)をおおむね充足している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学院博士前期課程の入学選抜については、入試制度委員会の決定に基づき、記述試験(語学・専門科目)及び面接のそれぞれについて点数化されて合議により合否が決定されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 大学院生の募集及び入学者選抜について、学科の複数の専任教員により審査が行われ、大学院生の受け入れ方針に基づき公正かつ適切に実施されている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 試験内容やその判定方法について、学科の教員による定期的な検討が必要と思われる。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 適切な点検・評価が行われています。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	家政学研究科 食物栄養学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 食物栄養学専攻として求める教員像は、「京都女子大学教員資格審査規程」「京都女子大学大学院研究科担当教員選考内規」等に明記されている。また、「大学の求める教員像および教員組織の編制方針」として大学ホームページでも公表される予定である。 食物栄養学専攻では、教育内容および研究対象領域を踏まえた教員像を明確にし、学部(食物栄養学科)の教員の業績に基づいて、教員人事(採用・昇格)に当たっている。具体的には、上記「専攻内規」第3条に、修士課程及び博士前期課程の研究科授業担当教員が必要とされる条件と能力が明記されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 食物栄養学専攻(博士前期課程)では、学部の食物栄養学科を母体として設置されている。食物栄養学科は、管理栄養士の養成施設であることから、大卒は法律および監督省庁の指導に従った組織で構成されている。本専攻の教員像、教員組織編制も学部食物栄養学科の教育課程を反映したものである。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻の平成29年(2017)年度における専任の教員数は17名であり、年齢構成は70代1名、60代8名、50代5名、40代3名である。60代以上が専任教員の半数を占めている。男性9名、女性8名であり、職位は教授9名、准教授7名、講師1名で構成されている。また、非常勤講師7名が特別講義等を担当している。 また、管理栄養士の養成施設であることから、監督省庁の指導に基づいた教員組織となっているが、大学院研究科自体は資格養成施設ではないので、基礎領域、周辺領域の研究、学習も考慮した柔軟な対応を心がけている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 専門領域、特性などを考慮した教員組織の構築に努めているが、教員の平均年齢が高く、今後は年齢バランスのとれた教員組織の構築が望まれる。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学院教員の募集・採用・昇格については、「京都女子大学教員資格審査規程」及び「京都女子大学大学院研究科担当教員専攻内規」に基準が明文化されており、これらに従って教員人事の審査がなされている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。

<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、学部学科組織と協働して、教員の教育面での資質向上のために、全学及び学科独自で実施されるFD研修への参加を積極的に奨励しており、授業公開と参観についても、教授会等で積極的関与を促している。教育活動(授業のわかりやすさ、履修指導、学生の意見に対するフィードバック等)に対する学生の満足度については、「授業アンケート」等を基に、学科内FD活動として会議等で検証している。教員の研究活動については、教員業績データベースへの積極的な入力を教授会等で促している。平成28(2016)年度からは「京都女子大学教員業績評価に関する規程」に基づき、前年度業績の評価を行い、学部長・学長による評価を受けて改善活動等に取り組んでいる。</p>
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 全学及び学科独自で実施されるFD研修への参加を積極的に奨励しており、授業公開と参観についても、教授会等で積極的関与を促している。学生の満足度については、「授業アンケート」等を基に、学科内FD活動を行っている。教員の業績として、学内で「食物学会誌」を毎年度刊行している。また、学外においても、各専門領域の学会発表や論文掲載が行われている。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 日常的には基盤となる学部が国家資格(管理栄養士)の養成施設であることから、学部学生に対する対応に多くの時間が割かざるを得ない。また、近年、教員の業務量が増加傾向にあるため、大学院担当教員としての資質の向上を図るための時間の確保が難しくなりつつある。今後は、業務内容を見直すことで、その効率化を図る必要がある。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大学院としてのカリキュラム・ポリシーを踏まえ、食品学、栄養学、食品衛生学、調理学の4研究専門分野で構成される教員を配置している。専任の教員数は17名であり、全員が食物栄養学科の専任教員でもある。教員組織とそれぞれの研究分野については、「大学案内」や「大学ホームページ」に公表されている。</p>
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記すべき事項なし。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

適切な点検・評価が行われています。改善方策も適切です。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見